



東京 プロジェクト スタディ

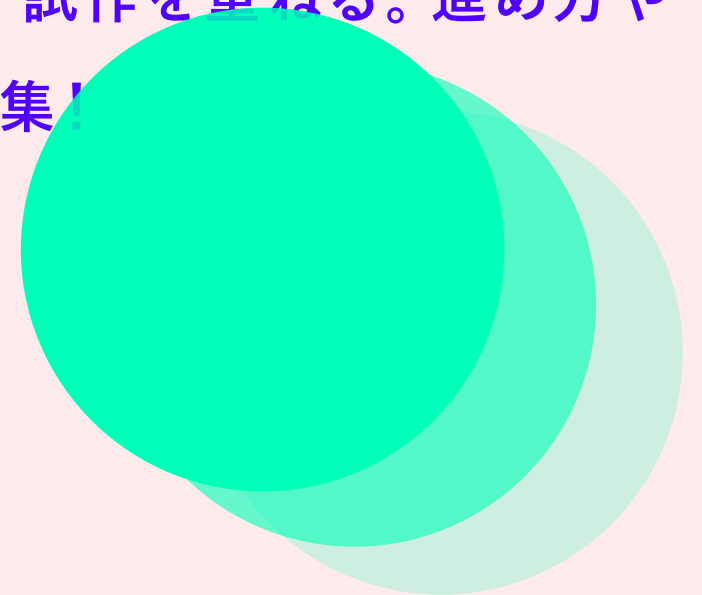
参加者募集中！ 8月5日[水] 申込〆切

《コミュニケーションと身体》《パフォーマンスの実践》《異なるルーツと出会う》

3つをテーマにアートプロジェクトの「核」をつくるスタディ

思考と
技術と
対話の
学校
2020

アートプロジェクトを生み出す新たな回路が必要だ。社会状況やシステムが変容し、これまでの価値観や判断基準が揺さぶられるなか、日々視点や手法の更新が求められている。日常の違和感や、ささやかな変化、これまでとは異なる時間の流れ方に目を向ける。視点をずらしたり、足元を見つめ直してみたり、いままでとは全く違うアプローチを試みたり。小さな実験や大胆なチャレンジの積み重ねのうちに、未来のアートプロジェクトの「核」は生み出されていく。それを思考し、「つくる」筋力を養う3つのスタディが8月に始動する。さまざまな表現者の問題意識や追求したいことを出発点に、チームを立ち上げ、議論、リサーチ、試作を重ねる。進め方やゴール設定はスタディそれぞれ。各チームへの参加者募集！





Q1. 東京プロジェクトスタディってなに？	3
大事にしている4つのポイント	4
思考と対話を重ねる8ヶ月！	5
Q2. どんなスタディが開講するの？	6
スタディ1 共在する身体と思考を巡って —— 東京で他者と出会うために	7
スタディ2 トーキョー・スカルプチャー・プロジェクト —— 2027年ミュンスターへの旅	10
スタディ3 Cross Way Tokyo —— 自己変容を通して、背景が異なる他者と関わる	13
合同共有会／ROOM302	16
Q3. これまでどんなスタディがあったの？	17
Q4. どうやって参加するの？	19
主催情報	20



東京 Q1. プロジェクト スタディ ってなに？

“東京で何かを「つくる」としたら”という投げかけのもと、
「ナビゲーター」と、公募で集まった「メンバー」がチームとなり、
リサーチや実験を繰り返しながら
新たなプロジェクトの核をつくる試みです。
ナビゲーターは、アーティストやディレクター、デザイナーなどのづくり手。
演劇、美術、パフォーマンス、写真、映像など、表現方法や
「つくる」過程もさまざまです。それぞれの問題意識や興味から、
スタディ（勉強、調査、研究、試作）を展開します。



大事にしている4つのポイント

- 1 何を、どのように、なぜつくるのかといった、「つくる前」の時間から、メンバーとともに思考と実験を繰り返します。
- 2 新しいことを生み出す「身体感覚」を身につけます。
- 3 答えを出すことやかたちにすることではなく、過程で生まれる「問い」や「もやもや」を大事にします。
- 4 スタディの「進め方」はチームで一緒に考えていきます。

スタディチームの登場人物



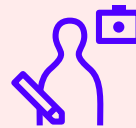
ナビゲーター

アーティスト、ディレクター、デザイナーなどのづくり手。スタディテーマを設定し、「つくる」ために必要なリサーチや実践を検討し、チームで進めていくときの旗振り役。



メンバー

チームメンバーとして、能動的にそれぞれが問いに向き合い、ときには提案しながら、リサーチやディスカッション、実験を重ねていく。



運営スタッフ

スタディの運営サポートをおこなう。活動プロセスをレポートや写真、映像等で記録してアーカイブする。「つくる」ことに向けた技術面でのサポートもおこなう。



ゲスト

スタディテーマを深めていくうえで必要な知識や技術、視座を持つ存在。スタディでの実践やディスカッションに参加したり、レクチャーをおこなったりする。

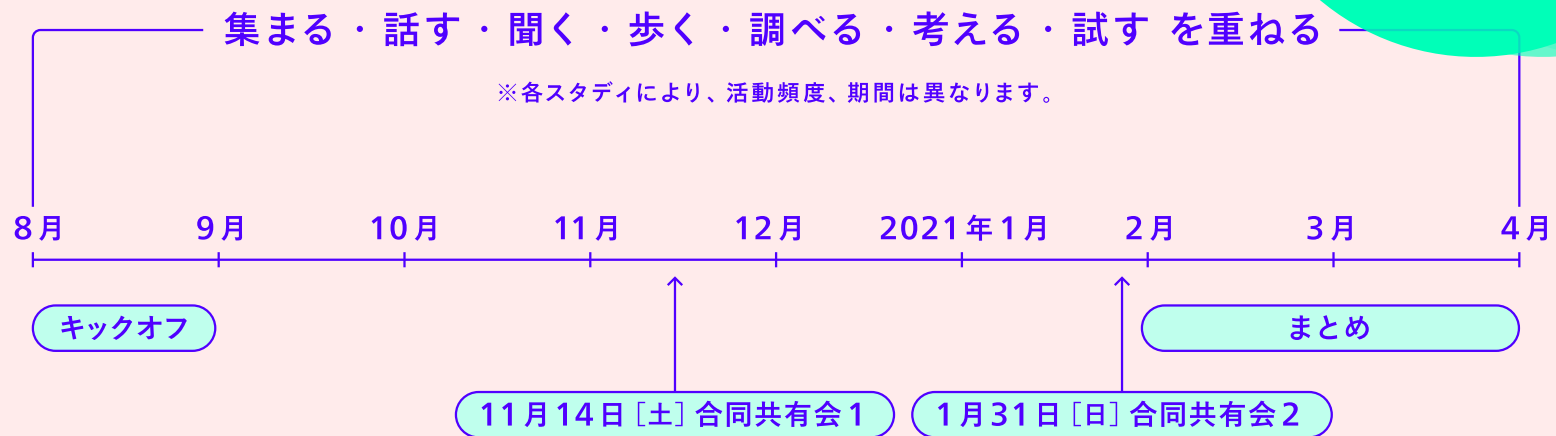


スタディマネージャー

アートプロジェクト運営経験のあるアーツカウンシル東京プログラムオフィサー。スタディに伴走し、携わった事業で蓄積されたノウハウを活用しながら、学びをサポートする。

思考と対話を重ねる8ヶ月！

スタディでは約8ヶ月の活動期間を設け、チームで思考と対話を重ねながら、新しいアートプロジェクトの「核」をつくることを試みます。



1

共在する身体と思考を巡って
—— 東京で他者と出会うために

2

トーキョー・スカルプチャー・プロジェクト
—— 2027年ミュンスターへの旅

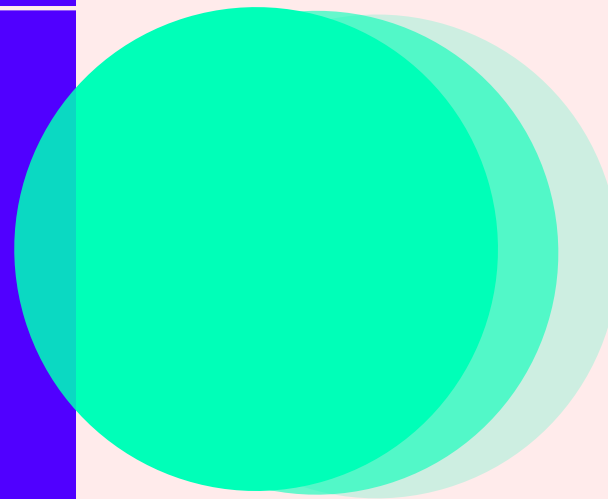
3

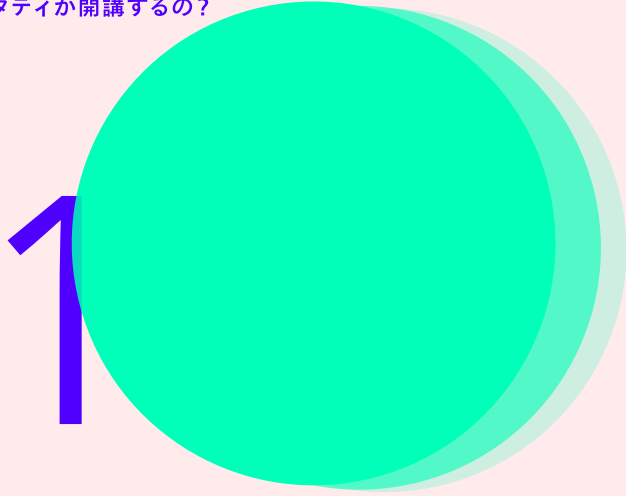
Cross Way Tokyo
—— 自己変容を通して、背景が異なる他者と関わる

どんな スタディが 開講するの？

Q2.

2020年度は「コミュニケーションと身体」
「パフォーマンスの実践」「異なるルーツと出会う」を
テーマとした3つのスタディを展開。
ここでは、各スタディの内容やポイント、
ナビゲーターについてご紹介します。





共在する身体と思考を巡って

—— 東京で他者と出会うために

誰かと何かをはじめようとするとき、考えや視点の違いを理解しながら、互いのイメージを擦り合わせ、どうやってともにつくっていこうかと議論を重ねる。文化的にも社会的にも、そして身体的にも異なる経験を持つ者同士が、お互いの差異と経験を想像しながらコミュニケーションをはかること。それは日々、アートプロジェクトの現場で起こっている光景です。そして、そのコミュニケーションの密度やともに経験した時間が、プロジェクトをより豊かなものにすると言っても過言ではありません。

コミュニケーションとは、“ことば”に限ったものではなく、むしろ、表情やしぐさ、声色、動き、間など身体を用いた非言語の領域が、日々のコミュニケーションに大きな影響を与え、補い、支えているのではないのでしょうか。いま、思い立って誰かに会いに行く。互いに目を見合い、相手の息づかいを感じ、何気ないしぐさを眺めながら話をする。そんな当たり前のことが気軽にできなくなって久しい状況のなかで、改めて「コミュニケーション」や「身体性」について考えていく必要があるのではないか。本スタディでは、写真家、ダンサー、インタープリター（通訳者・解釈者）とともに、身体性の異なる人々の世界に触れながら、“ことば”による表現だけではないコミュニケーションの在り方を探り、その可能性について考えていきます。

#ワークショップ（身体、視点） #リサーチ #ディスカッション #エッセイ執筆

1

このスタディを通して得られる経験

- 身体性の異なる人々の世界に触れながら、“ことば”による表現だけではないコミュニケーションを体感する。
- ワークショップやディスカッションを通して得た気づきや問いを参加者と共有し、自分自身の身体性に意識を向けながら思考する。
- 違和感や戸惑いも含めて肯定的に捉え、思考し、言語化することを試み、スタディ1での実践をかたちにする。

※かたちの在り方については、参加者とともに協議しながら制作予定

対象

- 身体表現、身体言語など、コミュニケーションや身体に関する企画に取り組もうとしている人
- コミュニケーションについて、もう一度捉え直したい人
- さまざまな特技をお持ちの人

※美術、映画、音楽、演劇、建築、料理など、表現形態・専門は問いません。

※年齢、国籍不問。

※東京で活動する人に限りません。

活動日

第1回		8月23日〔日〕	第4回		10月31日〔土〕	第7回		12月20日〔日〕
第2回		9月13日〔日〕	第5回		11月28日〔土〕	第8回		1月10日〔日〕
第3回		10月4日〔日〕	第6回		12月6日〔日〕	第9回		2月7日〔日〕

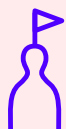
詳細・最新情報はこちら

https://tarl.jp/school/2020/tps2020_1/

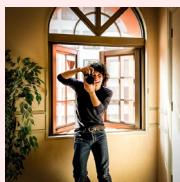
>

1

スタディチーム



ナビゲーター



加藤 甫

写真家

[PROFILE >](#)

VIEWPOINT

非言語の新たなコミュニケーションのかたちを探索する



南雲 麻衣

パフォーマー／
アーティスト

[PROFILE >](#)

VIEWPOINT

身体を媒介に世界と共鳴する方法を実験する



和田 夏実

インタープリター

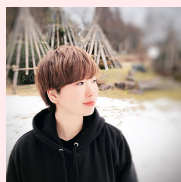
[PROFILE >](#)

VIEWPOINT

「伝える／伝わる」の本質を
思考し、その可能性を拡張する



運営スタッフ



田中 結夏

手話通訳者

[PROFILE >](#)

ROLE

ことばや手話での対話を
通訳する



米内山 陽子

劇作家／演出家／
舞台手話通訳家

[PROFILE >](#)

ROLE

ことばや手話での対話を
通訳する



木村 和博

劇作家／編集者／ライター

[PROFILE >](#)

ROLE

活動の記録や
運営サポートをおこなう



スタディ マネージャー



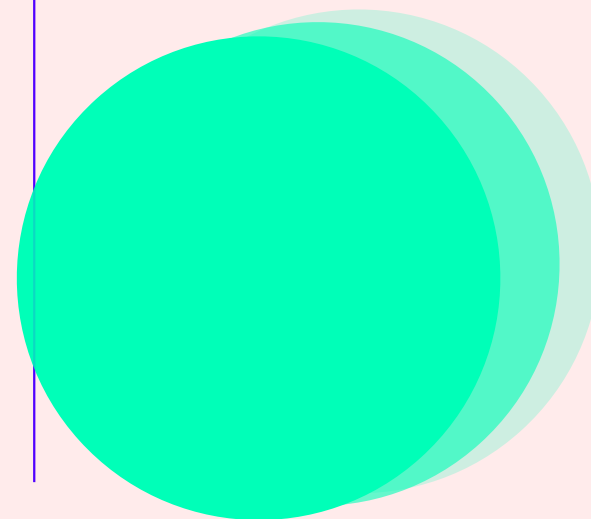
嘉原 妙

アーツカウンシル東京
プログラムオフィサー

[PROFILE >](#)

ROLE

スタディに伴走し、
学びをサポートする



2



トーキョー・スカルプチャー・プロジェクト

——2027年ミュンスターへの旅

いま、私たちは否応なくふるまいを変えざるを得ません。行動や価値観、感覚の変化をひしと実感する。それは他者や社会に対してどうふるまうか、どう接するか、どう居るか、という私たちの日々の「パフォーマンス」の強制的な変化とも言えるかもしれません。そんな状況のなかで、「東京」で何かを「つくる」ということは、いままで以上に難しい問いになりました。

このスタディは、10年に一度の「ミュンスター・スカルプチャー・プロジェクト」という芸術祭の経験からスタートしました。街（生活の場）に作品が置かれていますが、10年という時間軸で俯瞰すると、スカルプチャーという概念が音の作品やパフォーマンス、アートプロジェクトに近いものにまで拡張され、時代とともに作品の在り方も変化しています。おそらく「パフォーマンス」も、その概念が拡張したり収縮したり変容していくはずです。そこには必ずしも悲観的なことだけでなく、何かをつくるうえでのヒントや面白味があるのではないのでしょうか。

スタディ2では実際に手や頭や身体を動かして作品を「つくる」ことをナビゲーターやゲストと一緒にやってみます。「パフォーマンス」という視点を持ちながら、小さい何かをかたちにすることから始めましょう。

#東京、スカルプチャー、演劇 #パフォーミングアーツ、パフォーマンスアート
#フィクション、プレイ #ワークショップ、リサーチ、ディスカッション
#クリエイション

2

このスタディを通して得られる経験

- アーティストが何かをつくる過程を「知る」。
- 自分で実際に手や頭や身体を動かしながら、小さい何かをつくることを一緒に「やってみる」。
- やってみる過程で得た問い、もやもや、アイディア、発見などを共有して「考える」。

※ジャンルの異なるゲストを招き、2～3日程度の集中ワークショップ（講義・ワーク・小作品制作など）を数回おこないます。
最後にそれらの経験をもとに、小作品（試演）の発表をおこないます。

対象

- パフォーマンスについて考えたい人
- 作品づくりに興味がある人
- ユーモアを持って、創作のプロセスを探りたい人

※美術、映画、音楽、演劇、建築など、表現形態・専門は問いません。

※基本はワークショップなど、対面を前提として進めますので、直接参加できることが前提です。

（感染状況や社会状況を踏まえて、オンラインでの実施に切り替える可能性があります。）

活動日

第1回 | 9月2日 [水] 19:00～21:00

第2回 | 9月27日 [日]

第3回 | 10月18日 [日]

第4回 | 10月23日 [金] 夜・24日 [土]・25日 [日]

第5回 | 10月28日 [水] 19:00～21:00

第6回 | 10月31日 [土]

第7回 | 11月7日 [土]

第8回 | 11月11日 [水] 19:00～21:00

第9回 | 12月11日 [金] 夜・12日 [土]・13日 [日]

第10回 | 12月16日 [水] 19:00～21:00

第11回 | 1月22日 [金] 夜・23日 [土]・24日 [日]

※10月、11月の日程について一部変更となりました（7月9日更新）

詳細・最新情報・過去の活動の様子はこちら

https://tarl.jp/school/2020/tps2020_2/ >

2

スタディチーム



ナビゲーター



居間 theater

[PROFILE >](#)

東彩織／稲継美保／宮武亜季／山崎朋
パフォーマンスプロジェクト

VIEWPOINT

新たなパフォーマンスのかたちを追求する

佐藤慎也

[PROFILE >](#)

建築家／日本大学理工学部建築学科教授

VIEWPOINT

スタディの構造を設計する



運営スタッフ



堀切梨奈子

[PROFILE >](#)

日本大学理工学部
建築学科 助手

ROLE

文章でスタディを記述する



富田了平

[PROFILE >](#)

フォトグラファー／
ビデオグラファー

ROLE

映像や写真でスタディを
記録する



スタディ
マネージャー



大内伸輔

[PROFILE >](#)

アーツカウンシル東京
プログラムオフィサー

ROLE

スタディに伴走し、
学びをサポートする



村上愛佳

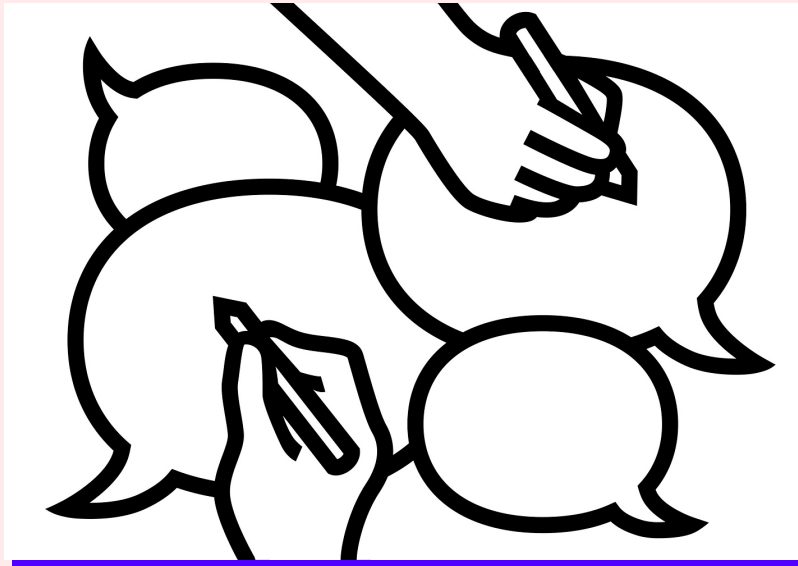
[PROFILE >](#)

アーツカウンシル東京
プログラムオフィサー

ROLE

スタディに伴走し、
学びをサポートする

3



Cross Way Tokyo

—— 自己変容を通して、背景が異なる他者と関わる

自分とは異なるルーツを持つ人とコミュニケーションをとろうとすると、何かしらのハードルを感じる人は多いのではないのでしょうか。『移民』や『難民』ということばや、海外にルーツを持つ人々に関連したニュースが増えている昨今、「多様性を尊重したい」と感じているものの、積極的に関わるきっかけを持てなかったり、実際にその立場になると尻込みしてしまったり。

さまざまな背景を持つ人々が暮らす都市・東京では、誰しもが日々のなかで自分とは異なるルーツを持つ人々とすれ違っているはずですが、もしそうした人々と関わりを持ちたいと思ったとき、どのように関係性を築いていくことができるのでしょうか。専門的な技術やイベントを介した出会いだけではなく、それぞれの日常の延長線上で実践できることはないのでしょうか。

このスタディは、背景の異なる他者と関わろうとすると自身にハードルとなっている要素とは何か、思考をほぐすことから始めます。時には文章を書いたり、身近なまちを見つめ直してみたり、インプットとアウトプットを重ねながら、自身のなかにあるハードルを越えていくための「態度と実践方法」をまとめたメディアを立ち上げることを通して、自身の思考を更新していくことを試みます。

#ディスカッション #ゲストトーク #フィールドワーク

#メディア設計／デザイン #移民 #他者 #文化人類学

3

このスタディを通して得られる経験

- 背景の異なる他者と関わろうとするときに自身のなかでハードルとなっている要素について向き合い、チームでリサーチやディスカッションを重ねる。
- スタディを通して思考したことや実践したことを表現する形態から考え、メディア化して発信する。
- 『移民』や海外をルーツにした人々に関する現状や歴史について学び、自分自身の日常生活のなかにある複雑さに目を向ける身体性を身につける。

対象

- 『移民』や海外にルーツを持つ人やテーマに興味があるものの、これまでうまくタッチできなかった感覚や経験がある人
- 自分の経験を小冊子やウェブなどのメディアを立ち上げて発信することに興味がある人
- 異なる考えや価値観を尊重しながら活動できる人

活動日

第1回		8月22日 [土]	13:00～17:00	第7回		12月5日 [土]	10:00～17:00
第2回		9月5日 [土]	13:00～17:00	第8回		12月19日 [土]	13:00～17:00
第3回		9月26日 [土]	13:00～17:00	第9回		1月9日 [土]	10:00～17:00
第4回		10月10日 [土]	10:00～17:00	第10回		1月23日 [土]	10:00～17:00
第5回		10月24日 [土]	13:00～17:00	第11回		2月13日 [土]	10:00～17:00
第6回		11月21日 [土]	10:00～17:00	第12回		2月27日 [土]	13:00～20:00

※活動時間は、自主制作の時間や休憩を含みます。

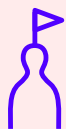
※スタディの進捗により日程・時間の調整をおこなうことがあります。

詳細・最新情報はこちら

https://tarl.jp/school/2020/tps2020_3/ >

3

スタディチーム



ナビゲーター



阿部航太

[PROFILE >](#)

デザイナー／
文化人類学専攻

VIEWPOINT

背景が異なる他者との
関わりあいを考える



運営スタッフ



鷺見洋之

[PROFILE >](#)

ノンフィクションライター

ROLE

レポート執筆、メディア立ち
上げの編集をおこなう



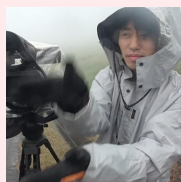
原 堯

[PROFILE >](#)

サービスデザイナー／
広告制作ディレクター

ROLE

各回サポート、メディア制作の
ディレクションをおこなう



森内康博

[PROFILE >](#)

映像作家／映画監督／
らくだスタジオ代表

ROLE

チームの変容を映像で
記録する



スタディ マネージャー



上地里佳

[PROFILE >](#)

アーツカウンシル東京
プログラムオフィサー

ROLE

スタディに伴走し、
学びをサポートする

スタディの合同企画と活動拠点

合同共有会

スタディの横断的なコミュニケーションを生み出す場

活動期間中には3つのスタディが集う「合同共有会」を開催します。各スタディの進捗、試みや課題などを持ち寄り、意見交換やディスカッションをおこなうことで、それぞれの活動を進めるうえでの手がかりを得る場であるとともに、スタディの枠を超えたネットワークを広げます。

2019年度の様子はこちら

https://tarl.jp/school/2019/tps2019_report_01/ >



ROOM302

学びを重ねるスタディールーム

「ROOM302」は、スタディチームが集って活動する拠点として利用することが可能です。さらに、全国各地のアートプロジェクトにまつわる成果物や書籍、海外の芸術祭の資料など、アーカイブしている資料を閲覧いただけます。

※感染症状況・社会状況を踏まえて開室します。

場所：3331 Arts Chiyoda 3F ROOM302 [東京都千代田区外神田 6-11-14-302]

<https://tarl.jp/room302/> >





これまで どんな スタディが あったの？

03.

2018年度からスタートした東京プロジェクトスタディは、
2019年度までに演劇や美術、パフォーマンス、音楽、
映像など、7つのスタディを立ち上げました。

どんなナビゲーターやメンバーが活動してきたのか、
詳しい内容はアーカイブサイトやパンフレットを
ぜひご覧ください。

アーカイブサイト

これまでの活動内容は、年度別にアーカイブサイトに公開しています。チームで思考したこと、新たな方向性につながったことば、学びを深めるための資料など、各スタディが「つくる」に向き合ったプロセスを時系列で追うことができます。チームの試行錯誤を追体験するようにご覧ください。

<https://www.tokyoprojectstudy.jp/>



パンフレット

東京プロジェクトスタディについてまとめています。2018 年度から展開している「スタディ2：2027 年ミュンスターへの旅」を事例に、活動期間のやりとりや試行錯誤の様子をイラストで紹介しています。さらに、「東京でつくる」可能性について、過去にナビゲーターを務めた2名のインタビュー記事も掲載しています。

https://tarl.jp/library/output/2019/2019_tarl_tps_letter/



どうやって参加するの？

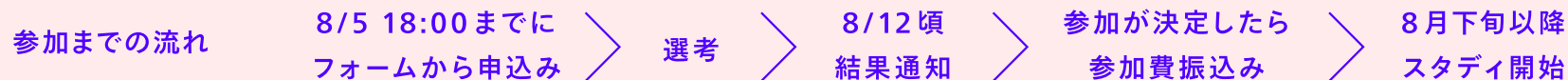
Q4.

下記ウェブページより詳細をご確認のうえ、申込みフォームよりお申込みください。

スタディ詳細ページ

<https://tarl.jp/school/2020/tps2020/> >

募集期間	2020年7月8日〔水〕－8月5日〔水〕18:00
募集人数	スタディ1：6名程度　スタディ2：10名程度　スタディ3：8名程度
参加費	一般：30,000円　学生：20,000円／約8ヶ月間　※フィールドワーク等の交通費、飲食費は別途実費



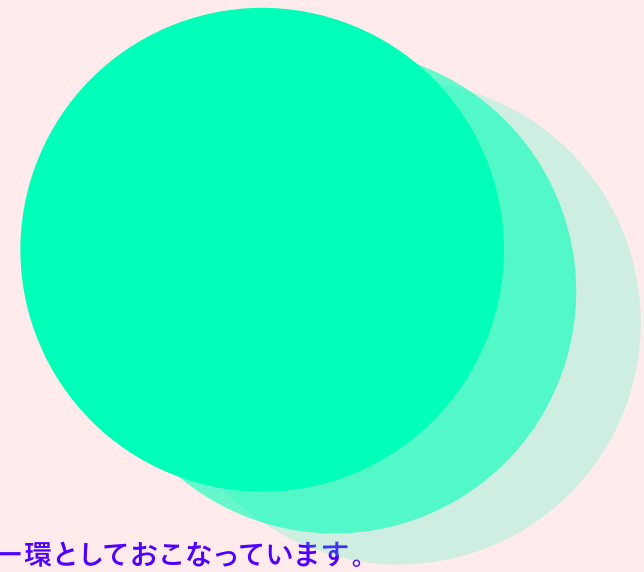
※全ての活動日および合同共有会に参加できる方を優先します。

※開催方法是对面またはオンラインなど、感染症状況・社会状況を踏まえて、随時決定します。

※スタディ開始後、参加キャンセルによる返金には応じられません。ご了承ください。

※本プログラムの内容は変更になる場合があります。

※お預かりした個人情報は、本事業の運営及びお知らせのみに使用します。



Tokyo Art Research Lab (TARL) とは？

東京プロジェクトスタディは、Tokyo Art Research Lab「思考と技術と対話の学校」の一環としておこなっています。

TARLは、アートプロジェクトに関わっている、またはこれから関わる人のためのラボです。スクールプログラム「思考と技術と対話の学校」と「研究・開発」の2軸で、社会におけるアートプロジェクトの可能性を広げることを目指しています。

<https://tarl.jp/> >

メールニュースの登録はこちら！

TARLの最新情報やイベントのご案内、レポート公開のお知らせなどをお届けしています。ぜひご登録ください！

https://b.bme.jp/bm/p/f/tf.php?id=tarl_mail >

主催／お問合せ

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

Tokyo Art Research Lab 事務局

e-mail: tarl@artscouncil-tokyo.jp

tel: 03-6256-8435（平日 10:00–18:00）